



林寺小学校跡地事業に関する プレゼンテーション資料



2023年 3月 5日



アブロードインターナショナルスクールについて

(1) 運営母体

法人名 住 所 代表取締役	株式会社バハールエデュケーション 東京都港区芝大門1-3-17 玉家ビル4F TALHA YILDIZ (タルハ ユルドス)
大阪校 住 所 校 長	アブロードインターナショナルスクール大阪校 大阪市西区北堀江1-3-2 Being四ツ橋ビル6F ULU KENAN (ウル ケナン)
会社設立	2002年 4月25日
目的	外国人子弟と日本人子弟に対して、教育と国際交流に関する事業を行い、子供の健全育成及び国際理解の促進に寄与する
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童を対象としたアブロードインターナショナルスクールの経営および運営 ・ 諸外国の文化講座や外国語講座を開催する国際理解教育事業 ・ 地域との国際友好関係を深めるための地域交流事業
関連学校	①学校法人 ホライゾン学園（神奈川県） ・ ホライゾンジャパンIS（横浜校、仙台校） ②学校法人 江西国際学園（愛知県） ・ 江西IS（名古屋市） ③NPO法人 国際交流学級（東京都品川区） ・ 品川インターナショナルスクール（旧 神宮前国際交流学級）

注）：ISはインターナショナルスクールの略

(2) 沿革

アブロードインターナショナルスクール大阪校の沿革

2006年4月	アブロードインターナショナルスクール大阪校 幼稚部開校
2012年4月	アブロードインターナショナルスクール大阪校 小学部開校
2018年4月	アブロードインターナショナルスクール大阪校 中学部開校
2019年3月	国際バカロレア（IB）初等教育プログラム（PYP） の認定校に認定されました
2021年3月	国際バカロレア（IB）中等教育プログラム（MYP） の候補校に認定されました
＊現在Infants（1歳児）から中等部G8まであり、 今後毎年1学年ずつ増加し、高等部（G12）まで増 設していく予定	

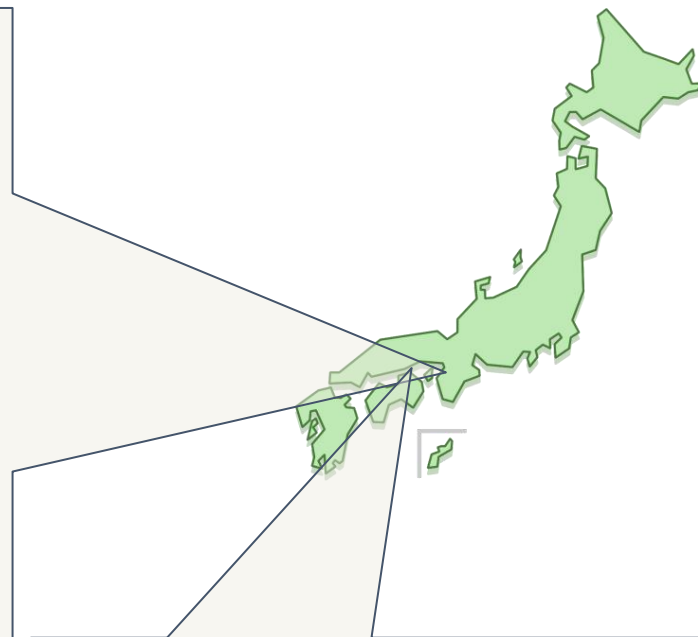
当校は、大阪市内で17年近い経営実績を有する、
大阪府内でも数少ない国際バカロレア(IB)*認定校

* IBとは国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラム。
国際バカロレア（IB：International Baccalaureate）は、1968年、チャレンジに満ちた
総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生
徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付け
させるとともに、国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大
学進学へのルートを確保することを目的として設置されたもの。

（出典：文部科学省IB教育推進コンソーシアムのHPより）

アブロードインターナショナルスクールについて

アブロードインターナショナルスクール大阪校



アブロードインターナショナルスクール岡山校



【参考】全国に広がる姉妹校



学校法人 江西国際学園（名古屋市）



学校法人ホライゾン学園 仙台校

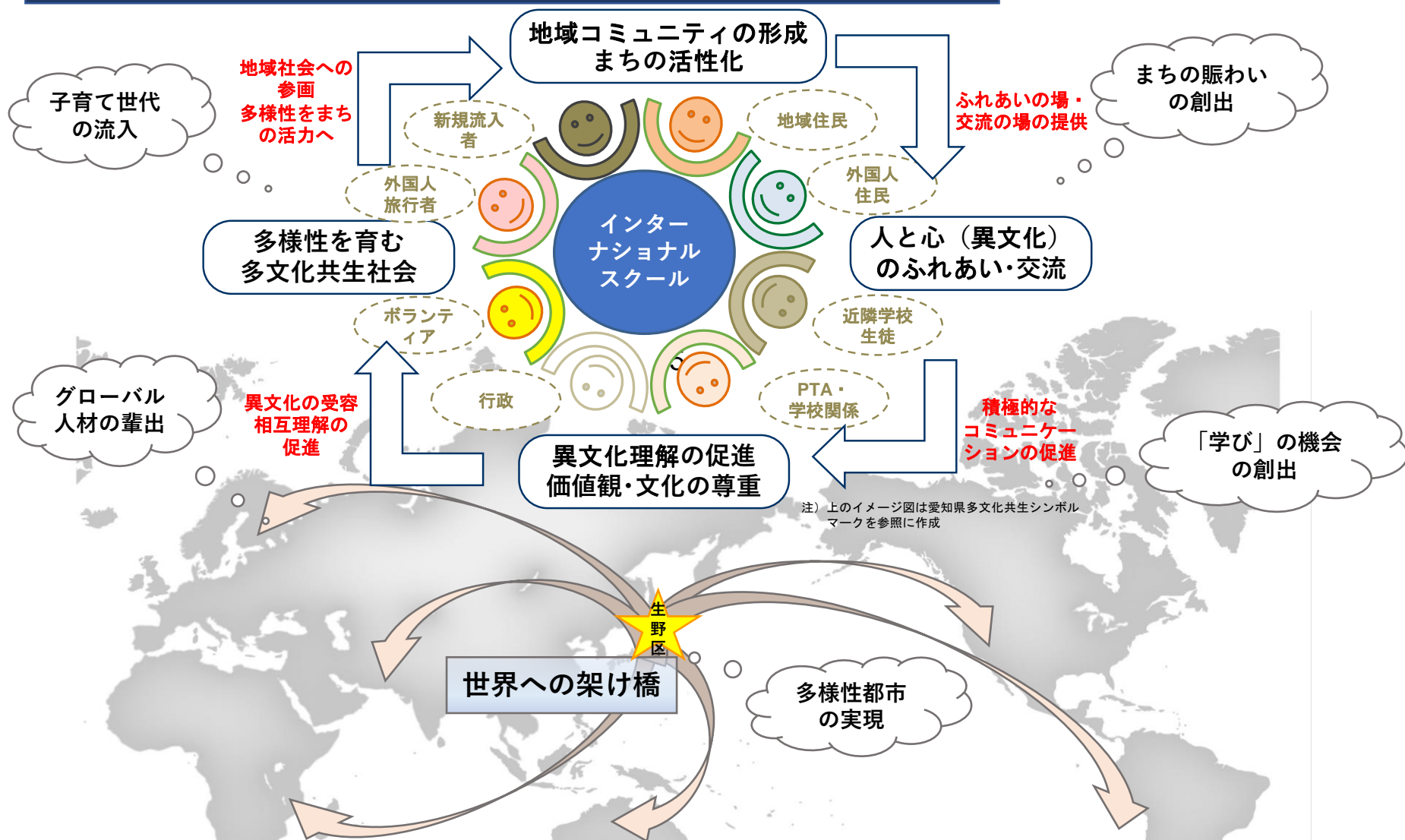


学校法人ホライゾン学園 横浜校



品川インターナショナルスクール

計画提案のコンセプト



人と心がふれあい、文化が交わり、寛容な多様性を育む。それは、いきいきとした魅力のあるまちをつくり、そして「世界へ繋がる架け橋」となる。多文化共生の草の根的な活動を推進（実践）するインターナショナルスクール

周辺エリアを含む活性化

林寺小学校跡地活用計画



私たちが描く理想の教育施設



(1) 地域での役割と貢献（地域コミュニティ機能と多文化共生社会）

- ・ 地域の防災拠点機能とともに、地域の一員として地域コミュニティの維持、活性化に貢献
- ・ 当校の教育理念の実践を通じて、多文化共生社会の実現に貢献
- ・ 開校時には300名近くの生徒や教職員が集まり、地域内に賑わいが生じる

(2) 周辺エリアへの波及効果（地域活性化、様々な学びの機会）

- ・ 周辺エリアへは、通学希望の児童や生徒等の子育て世代の家族が転入してくる
- ・ 近隣の学校との交流により、オールイングリッシュでの様々な「学び」の機会を創出

(3) 大阪市への貢献（都市の魅力度向上、グローバル化）

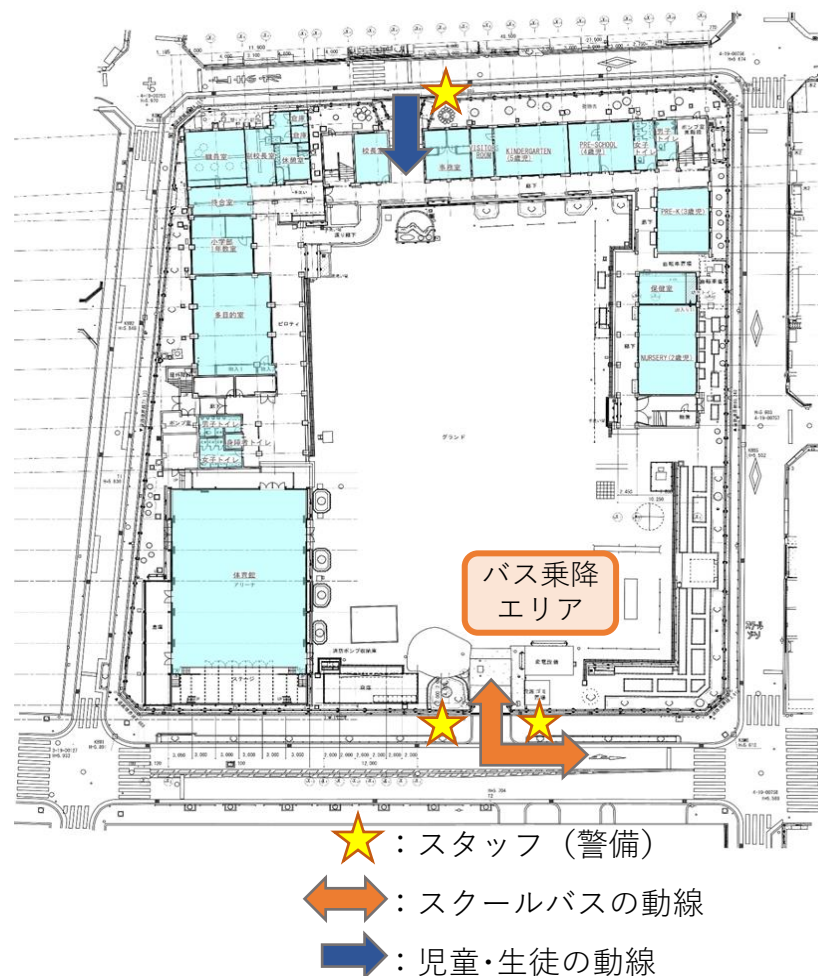
- ・ I B 認定校として海外進学支援を推進し、グローバル人材の育成、多様性都市の実現に貢献
- ・ 外国人が安心・快適に暮らせる社会インフラとしての役割を積極的に担う⇒都市の魅力向上
- ・ 生野区・大阪市の文化や魅力を理解した人々が世界に拡がり、「平和と交流の架け橋」ができる

敷地全体の活用計画

現在の校舎、講堂、グラウンド、遊具など施設全体を活用して、幼稚部から高等部までの一貫教育を行う「インターナショナルスクール」として利用します

施設名	階数	利用方法（変更箇所）
校舎A棟	1階	家庭準備室→保健室、家庭教室→普通教室
	2階	図工準備室→理科準備室、図工教室→理科室
	3・4階	変更なし（普通教室、図書室）
校舎B棟	1階	事務管理室→校長室、更衣室→応接室、職員室と校長室→普通教室2室、保健室→普通教室
	2階	理科室と理科準備室→普通教室2室、男女更衣室→普通教室
	3階	音楽準備室→普通教室、音楽室→パソコン教室、パソコン教室→音楽室
校舎C棟	1階	教職員の執務スペース：給食室（調理室と更衣室）→職員室、配食用通路→待合室
	2階	学習室2室→普通教室1室
校舎D棟	1階	多目的室は地域コミュニティスペース、防災備蓄倉庫は災害時備蓄物資の保管スペースとして現状の利用方法を継続 生活科室→普通教室
	2階	プールは現状の利用方法を継続
講堂棟		地域コミュニティスペース、災害時の避難所。講堂内倉庫一部を地域活動備品の保管スペースに利用（継続）。地域および大阪市事業に使用しない時間帯は体育館、講堂として利用
グラウンド		地域コミュニティスペース、災害時の一時避難所。地域および大阪市事業に使用しない時間帯は運動場として利用
体育倉庫		一部を地域活動備品の保管スペースに利用（継続）

1階校舎及びグラウンドの入退出動線



防災拠点機能

- ◆ 施設が地域の防災拠点であることを強く認識し、災害時の避難所として円滑に開設・運営できるように、地域と一体となった防災訓練に取り組むとともに、防災知識の普及・啓発にも注力いたします。
- ◆ また、新たな発想で学校教育の中でボランティア教育にも取り組んでまいります。

(1) 避難場所の確保

- ・ 災害時の施設開放計画⇒講堂・多目的室、普通教室15室、特別室5室
- ・ 円滑な運営を図るため、施設運営マニュアルの定期的な見直し
- ・ 災害時の避難場所の速やかな開設および運営
- ・ 防災備蓄倉庫 ⇒校舎D棟1階に指定避難所に必要な備蓄品を保管

(2) 防災教育・ボランティア教育、防災知識の普及・啓発

- ・ 防災教育&ボランティア教育（学校内での取り組み）
- ・ 外国人への防災意識の啓発⇒気づきや関心の付与

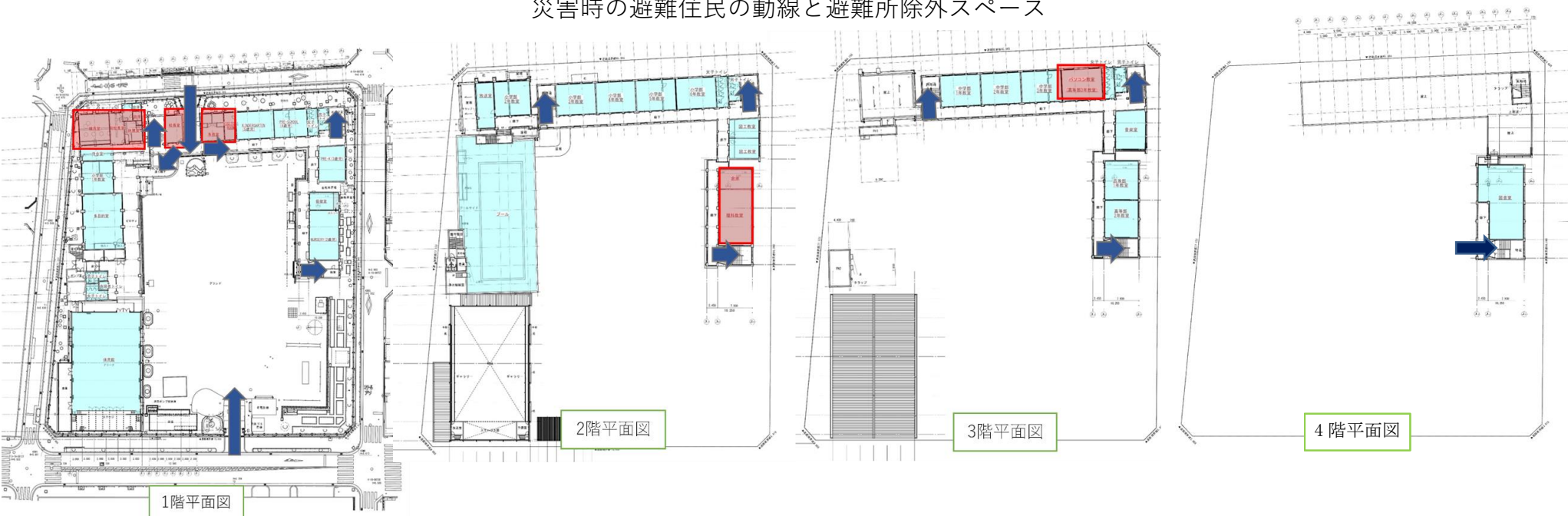
(3) 地域と一体となった防災訓練の実施

- ・ 地域合同防災訓練⇒外国人市民を含めた地域と一体となった防災訓練へと拡大
- ・ 災害時の避難住民受入れ訓練を実施⇒避難場所の円滑な開設・運営

防災拠点機能（避難所機能）

- ◆ 災害時の避難場所として円滑な運営を図るため、「林寺学区連絡協議会（仮称）」に防災推進会議を設置し、生野区の防災担当部局や地域住民と連携して、施設の運営マニュアルを見直し、改善していきます。
- ◆ 災害時の避難場所の開設については、施設管理者在中時（開館時）は生野区からの避難所開設の連絡を受け、施設を解錠し、利用者の安全確保、避難誘導など避難者の受入れを行います。休館時は地域自主防災組織や区役所が、施設の解錠を行い、避難所開設、運営、避難者受入れなどを行います。

災害時の避難住民の動線と避難所除外スペース



➡ :災害時の住民の動線

■ :避難所除外スペース

避難所除外スペース

校舎B棟：1階 校長室、事務室
校舎C棟：1階 職員室、副校長室、
休息室

校舎A棟：2階 理科室、理科準備室

校舎B棟：3階 パソコン教室

地域コミュニティ

- ◆ これまでの施設を利用した地域コミュニティ機能は、今後も継続してまいります。地域の一員として積極的に参加していくとともに、当校主催のイベントへも地域の方々に参加いただき、異文化交流の場を提供いたします。また、近隣の小中学校ともスポーツや音楽などの交流を通じ、異文化の理解促進に努めます。

(1) 既存の地域活動・イベントの継続

- ・これまで小学校を利用して実施されてきた地域活動は、継続して実施
- ・地域住民の方が主体となって実施する地域行事やレクリエーション等のイベントへ、当校の生徒や教職員、さらには保護者も積極的に参加
- ・セキュリティ対応についても、従来の本人確認のうえ電子錠を解錠する方法を踏襲

(2) 当校主催のイベント（異文化交流の場の提供）

- 1) ソフトバレーボールトーナメント（スポーツイベント）
 - 2) ジャパニーズ・カルチャー・デー（日本文化の日）
 - 3) インターナショナル・チルドレン・フェスティバル（国際子ども祭り）
- ・地域の方々にも開放し、異文化の交流と理解、そして多文化共生のまちづくりへ

(3) 近隣の小中学校との交流による異文化理解の促進

- ・スポーツや音楽、美術などの交流会を開催し、草の根的な多文化共生の活動を実践
- ・相互に連携、交流することで異文化の理解の促進を図る

地域連携体制（運営協議体の設置）

- ◆ 地域との連携をより緊密にしていくために、行政および地域の方々、そして私どもの三者で「林寺学区連絡協議会」を組織化し、定期的に協議や意見交換を行う協議会を提案します。連絡協議会の円滑な運営へ向け、地域とつながりの深い方を地域連携アドバイザーとして委嘱する計画です。

林寺学区連絡協議会（三者協議）

協議会メンバー(案)

行政代表	大阪市生野区地域まちづくり課
地域代表	旧林寺小学校跡地問題検討委員会の委員
事業者代表	校長、副校長、地域連携アドバイザー PTA代表

開催時期(案)

- 年2回の開催
 1) 年度スタート前の3月
 2) 上半期終了間近の9月

協議事項(案)

- 地域との連携を円滑に行うための、協議及び情報交換の場
 1) 学校施設の年度利用スケジュールや利用上の問題点等
 2) 地域連携や多文化共生を推進するための意見交換
 3) 学校の活動状況の報告や情報交換

施設利用会議

事業者の次年度イベントカレンダーの決定
 (12月) ⇒ 恒例の地域イベント日程を考慮



まちづくり協議会や既存の利用団体（行政）
 との利用日程及び時間帯の調整（翌年2月）



三者間での利用日程及び時間帯の合意
 年度利用スケジュール及び利用者確定（3月）

地域交流会議

地域、学校主催の交流活動に関する協議



地域交流イベント等での問題点や課題、要望
 事項、改善施策の協議（翌年1月）



地域交流活動や多文化共生活動の次年度の活
 動計画の作成（3月）

学びの機会提供等

- ◆ インターナショナルスクールの特徴を活かし、職場体験やボランティア体験、さらには教員実習の場を提供します。また、近隣の小中学校とは、英語での体験学習の場や新しい「学び」とのふれあいの機会を作り出していきます。
- ◆ 地域包摂的視点から、地域内の外国人住民に対する奨学金制度や割引優待制度を充実させていきます。そして、近隣の方々へは講演会やセミナーなどで、「学び」の場や機会を提供していきます。

(1) オールイングリッシュの職場・ボランティア体験の場の提供

- ・ 中・高・大学生に、オールイングリッシュの職場体験や、学校ボランティア等の体験場所

(2) 教師を目指す大学生の実習の場の提供

- ・ 教師を目指す近隣の大学生や留学生などへ、IB教育の実習の場

(3) 近隣の小中学校との連携による「学び」の機会

- ・ 算数や体育等の学習を英語で行う体験学習の場（これまでと異なる学習方法）
- ・ 新しい「学び」（表現力、判断力、思考力）とのふれあい

(4) 地域学童を対象とした奨学金制度の創設

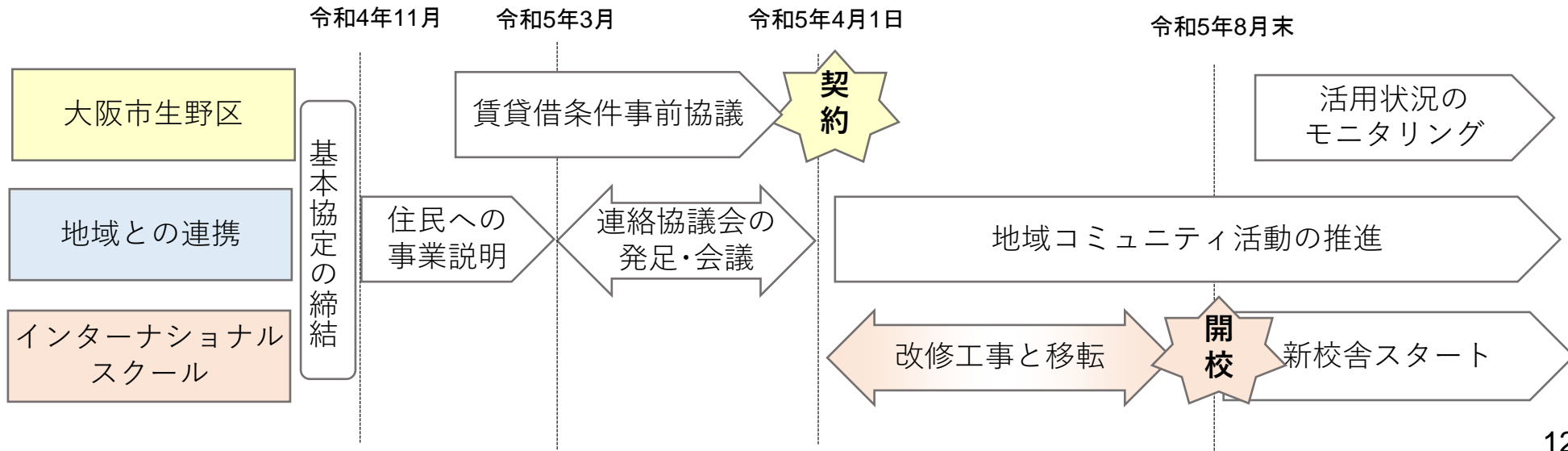
- ・ 区内在住の外国人世帯の児童・生徒を対象として、奨学金制度の創設（幼稚部）
- ・ サタデースクール、サマースクールなどでも、区内在住の児童・生徒へ割引優待制度

(5) セミナー等での「学び」の機会の提供

- ・ 子育てや教育などの講演会やセミナーを開催し、地域の方々へ「学び」の機会を提供

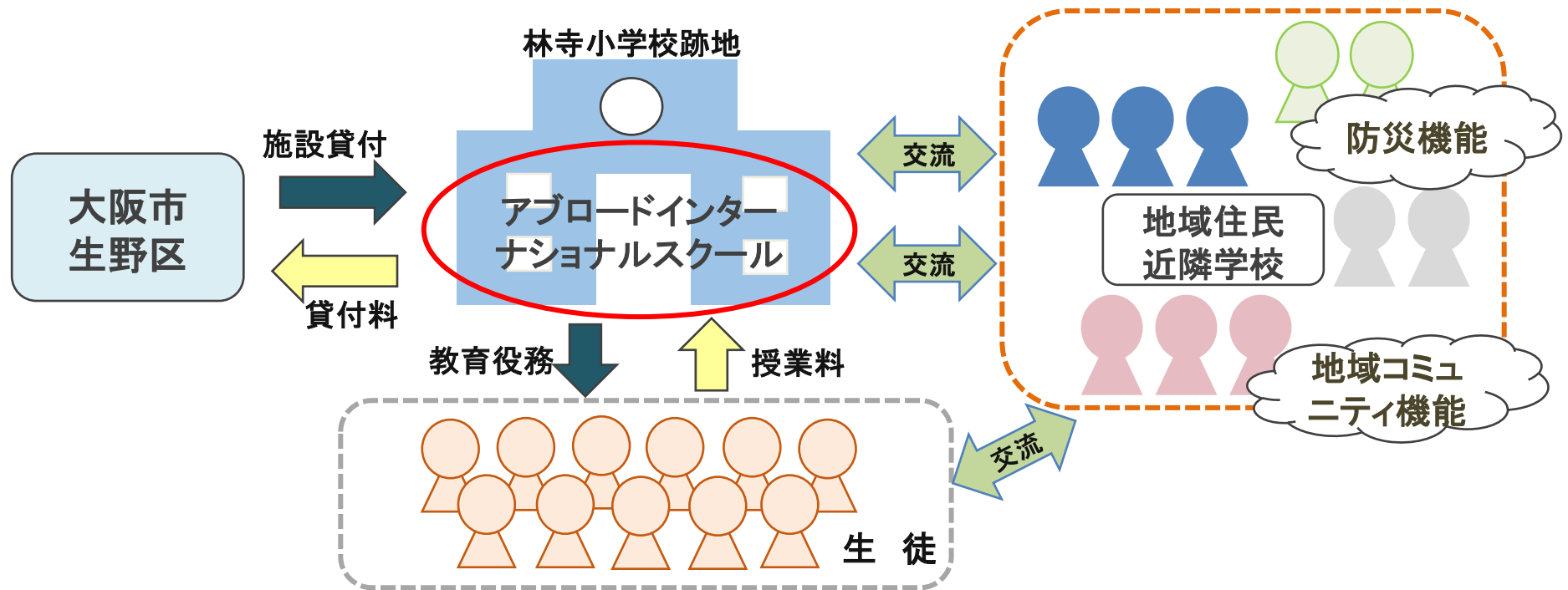
事業スケジュール

- ◆賃貸借に関する事項は、令和5年4月の施設引渡しを目標に、貸主である大阪市生野区役所と指定されたスケジュールに則って、着実に進めてまいります。この間に、モニタリング事項についても確認いたします。
- ◆近隣の地域住民との連携に関しては、基本協定締結後すみやかに説明会を実施し、年明け早々には連絡協議体の設置に向けて協議をスタートし、施設の引渡し前に連絡協議体の第一回の会合を開催いたします。
- ◆次に改修工事については、事前に生野区役所に工事内容を説明し、承認を得た後、改修工事に取り掛かります。現時点では、令和5年4月から7月までの3か月間を改修工事の期間と計画しています。なお、改修工事期間の施設利用に関しては、利用者に影響が出ないよう十分に配慮して、取り進めます。
- ◆インターナショナルスクールは、令和5年8月下旬に開校（2学期のスタート）する予定です。現在の校舎からの移転、引っ越し作業は改修工事完成後、速やかに実施いたします。



事業の確実性・実施力（施設運営方法）

- ◆ 私どもが、大阪市生野区から施設全体を一括して借り受けて、インターナショナルスクールを運営する形態といたします。施設の一部を第三者へ転貸することは考えていません。
- ◆ 現在、大阪市内で事業を展開しており、施設の移転ということで確実に事業を実施することができます。



ご清聴ありがとうございました。